

狭山にゆかりのある文化人紹介 その8

いまさか りゅうじ

民話収集家・俳人・ランナー **今坂柳二氏**

1930(昭和5)年～

水富村笹井に農業今坂権三郎の次男として生まれる。元狭山市文化財保護審議会委員長・元狭山市史編纂委員。

1945(昭和20)年5月25日15歳の時、夜中に笹井空襲に遭う。焼夷弾投下により一瞬にして60軒の家々が消滅し、15人の死者を出す惨劇を目の当たりにする。後年その経験を将来に残すため、当時のことを語り合う会を立ち上げる。会は10年間続けられ、笹井の戦災史『覚書狭山戦災史』『狭山戦災の頃をしのぶ夕べ』『俳句集狭山戦災日』をまとめる。

25歳頃、俳句に出会う。日々農業をする中で17文字に思いを表現することに夢中になる。俳句同好会「ささぶね」を結成。公民館等、俳句サークルの指導にあたる。句集9冊・俳句関連誌10冊。「つばさ」代表、「野火」同人。

体力作りのため57歳でマラソンを始める。青梅マラソンは連続24回完走、宮古島100キロRUN・北京～万里の長城RUN・日本山岳耐久レース等、数々のレースに参加。東京マラソンに83歳で出場、笹井での練習風景や当日の様子などテレビで放映される。

その土地の伝承話はその土地の言葉で語ることにこだわり、地域に残る昔話を訪ね廻り、採話して残す。220話を採話し、この地につながるご先祖の足跡として「龍じいの昔話」10冊にまとめた。狭山ケーブルテレビで好評放映中。また、当誌にて「まだある狭山のおはなし ちよっくらきいてくんろ」として昔ばなしや戦争体験18話を連載。

取材：小川豊子



はしもと しゅうは

刀身彫刻師 **橋本琇巴氏**

1949(昭和24)年～

長野県に生まれる。本名、橋本太郎。専修大学を卒業後、刀剣に興味を持ち、1982(昭和57)年刀身彫刻師の苔口仙琇氏に師事する。1991(平成3)年に師から「琇巴」の銘をもらい、独立する。狭山市に移り住んだのは、1997(同9)年で、この年には「新作名刀展」の「刀身彫刻の部」で優秀賞を受賞、その後も毎年受賞。

2003(平成15)年、狭山市立博物館で初めての個展「刀身彫刻～橋本琇巴展」を開催。刀身彫刻を施した25振の鉄剣を展示、刀剣関係者を驚かせた。宝物、重要文化財の復元品制作においても活躍しており、2010(平成22)年、宮内庁正倉院の宝物「黄楊木把鞘刀子(つげのきのつかさやのとうす)の復元品の制作で「象嵌」の部分を担当、京都の豊国神社の「骨喰藤四郎(ほねばみとうしろ)の復元品の制作で刀身彫刻の部分を担当、埼玉県行田市の「稲荷山古墳」から発掘された国宝「金錯銘鉄拳(きんさくめいてっけん)の復元品の制作で金象嵌115文字の再現を担当するなどの実績がある。

これまでに刀身彫刻の刀剣の個展や実演をロンドンなど海外含め50回以上開いている。2019年8月に横浜高島屋で開いた「刀身彫刻 橋本琇巴展」では、従来の刀剣ファンの中高年の男性だけでなく、若い女性も多く来場した。現在は狭山市富士見に住み、工房で刀剣に注文主の思いを刻んでいる。

取材：杉山隆二

